

子どもの心とからだの発達部会

部会長：附属中学校 近藤久美子
部会員：附属幼稚園 渡邊満美
附属小学校 江部紀美子・神崎芳明
附属高等学校 増田かやの

2023 年度活動報告：

幼稚園児から高校生まで、それぞれ異なる発達段階の子どもたちを見守り支援していく教員が集まり、日々の学校園の生活の中でみえる子どもたちの心とからだの様子を報告し合うことから始めた。子どもたちの心とからだの様子を報告し合うことで、それぞれの校園での発達段階ではどのような特徴や課題があるのかを把握し、前後の校園とのつながりを意識した支援の方法を模索した。

特に、どの校種においても昨今の大きな課題であるメンタルヘルスの健康教育については、昨年度から引き続いて取り組んでいくこととし、高等学校保健科におけるセルフコンパッションをテーマにした授業実践について検討した。

5回の会合内容は以下のとおりである。

	活動内容
第1回（5月）	顔合わせ 各校園の子どもの様子について報告 健康課題の確認
第2回（7月）	実践や資料について情報交換 高等学校授業実施に向けて検討 各校園の子どもの様子について情報交換
第3回（9月）	夏季研修の報告 高等学校授業計画について検討 各校園の子どもの様子について情報交換
第4回（1月）	高等学校実践（実施分）について振り返り 今後の授業内容について検討 各校園の子どもの様子について情報交換
第5回（2月）	高等学校授業実践について振り返り 各校園の子どもの様子について情報交換 1年間のまとめ

主に高等学校の授業実践について検討や振り返りをしていった1年となった。高等学校の実践についての検討ではあったが、検討者各自が目の前の子どもたちの実態を重ね合わせて考えることにより、各校園でのメンタルヘルスの課題を再認識する機会となった。また、子どもたちが身につけてほしいメンタルヘルスに関する要素は何なのか、それぞれの校園ではどのような支援や健康教育が必要か、考えを深める機会ともなった。

高等学校での授業実践の振り返りをとおして、それまでの校園からの健康教育の積み重ねによって、子どもたちのメンタルヘルスリテラシーは確実に定着していていることも改めて確認することができた。発達段階を考えながら、各校園のつながりを意識したプログラムづくりを今後もしていきたい。

一方で、子どもたちと接するなかでみえている心の実態について、発達心理学の側面から、大学の教員に解説をしてもらうということを当初計画していたが、今年度中には叶わなかった。次年度はぜひ実現させ、子どもたちの課題やアプローチの視点を検討する一助としたい。

【参考文献】

平野真理：自分らしいレジリエンスに気づくワーク 潜在的な回復力を引き出す心理学のアプローチ，金子書房，2023

クリストファー・ガーマー、クリスティン・ネフ 富田拓郎（監訳）他：マインドフル・セルフ・コンパッションプラクティスガイド，星和書店，2022

クリストファー・ガーマー、クリスティン・ネフ 富田拓郎（監訳）他：マインドフル・セルフ・コンパッションワークブック，星和書店，2019